

子どもたちを見守る

いなべ市長
日沖 靖

「サッチャン、おはよう。今日もいい天気だね。」
「あれ？トモちゃん遅いね。ちょっと待ってようか。」
「よし、みんな揃ったね。いってらっしゃい！」
笠田新田観音堂（瑞龍院 観音堂）の堂守の齋川さん夫妻の毎朝の光景です。



子どもたちを見送る齋川さん

齋川さんは神奈川県出身で、3年前に堂守になられた後、毎日、登下校の子どもたちを見守る活動をされています。また先生だった頃の経験を活かし、員弁西保育園でハーモニカ演奏などを披露され、子どもたちに好評を得ています。

齋川さんは「私は立っているのではなく、立たせてもらっています。子どもたちの笑顔から元気をもらっています。」と、通学中の子どもたちと触れ合っています。

近年、子どもたちが巻き込まれる事件や事故が社会問題となっておりますが、齋川さんのように地域のみなさまが子どもたちに声を掛け合い、犯罪者にスキを作らないことが、子どもたちを守ることにつながります。子どもの危険回避に詳しい立正大学の小宮教授も著書の中で「犯罪者に犯罪の機会を与えないことが重要です。」と述べられています。

齋川さんのような心ふれあう活動によって、子どもの安全が守られていることに感謝申し上げます。

学 校 紹 介

いなべ市立 員弁東小学校

地域安全マップ作り

～自分の命は自分で守ろう～

6年生が1学期に、学校周辺の地域安全マップ作りに取り組みました。それを踏まえて夏休みには、毎年行う地区行事の一環として、各地区で取り組むことになりました。

まずは、地域を歩いて危険箇所を見つけ、写真に撮ります。見つけるときの合い言葉は「入りやすく、見えにくい」です。普段からよく通るところでも、いざ探してみると、危険な場所がたくさんあることに気づきます。夏休みの暑い中でしたが、高学年を中心に地図係・写真係・インタビュー係の役割をきちんと果たし、楽しく地域歩きをすることができました。

地域歩きの後は、いよいよマップ作りです。歩いてきた場所のおおまかな地図を描き、そこへ撮ってきた写真を貼り、「ここは〇〇だから危険です」などとコメントを書き入れます。後は見やすいように色を塗ったり、模型を作って貼り付けたりするところもありました。どの地区も、とても丁寧に仕上げることができました。

2学期に入ってから全校集会で、6年生が完成した安全マップ、マップ作りを通して気づいたことや思ったこと、そのときの様子などを発表しました。



地域安全マップ作りについて発表する6年生



「ここは〇〇だから危険です」とコメントや写真入の安全マップ

発表原稿から

神社の中は薄暗く、道からすぐの所でも見えにくくとても危険です。マップ作りの時は、みんなはりきって、すごく楽しく作れました。また、自分の仕事に責任を持って動いてくれたので、いいマップができてうれしかったです。

自分たちで地域を歩き、マップをつくることで、右表のような効果が期待でき、とてもよい地区行事となりました。

- ① 危険な場所を察知したり、近づかない力が芽生えること
- ② みんなと仲良く歩いたり、作業したりすること
- ③ 自分たちの地域を見直すこと
- ④ 大人の防犯意識の向上